

## 世界自然遺産・白神山地でのアウトドア観光における ユニバーサル対応について

石盛 真徳・西尾 建

Universal Accessibility in Outdoor Tourism:  
A Case Study of Shirakami Sanchi

Masanori ISHIMORI  
Tatsuru NISHIO

# 世界自然遺産・白神山地でのアウトドア観光における ユニバーサル対応について<sup>1</sup>

石盛 真徳・西尾 建

## 1. はじめに

筆者らの研究グループは、2023 年度より科研費の助成を受けて、「アウトドア観光における共生モデルの研究」というプロジェクトに取り組んでいる（西尾，2025）。本プロジェクトでは、従来のアウトドア観光研究が主に健常者を対象としており、高齢者や障がい者に対する配慮が十分に行われていなかったという課題認識に基づき、世界遺産地域やジオパーク等におけるアウトドア観光についての調査を実施している。それらの調査を通じて、我々は格差の実態を把握・整理し、多様な人々が共に楽しめる持続可能なアウトドア観光の共生モデルを提案することを目指している。本研究は、このプロジェクトの一環として、白神山地を対象に、ユニバーサルなアウトドア観光を実現するために必要な要素を検討するものである。

## 2. 世界自然遺産としての白神山地

白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高約 200m から 1,250m の山地に広がる約 13 万 ha の山岳地帯（図 1）の総称であり、1993 年 12 月に世界自然遺産に登録されたのは、白神山地の中心部に位置する原生的なブナ林が残された約 1 万 7 千 ha の地域である（青森県自然保護課，n.d.；環境省，n.d.）。白神山地は、1980 年代にブナ林の伐採が進み、残り少なくな

ったブナ原生林への伐採反対運動が活発になるまで、国立公園や保護地域の指定がほとんどなかった無名に近い存在であった（牧田，2002；中静，2013）。いうならば、青森県と秋田県を結ぶ青秋林道の建設反対が契機となって「発見」された山域といえる（吉田，2018）。世界遺産地域は、特にすぐれた自然環境でほとんど人間が手を加えていない核心地域（コアゾーン：図1のA地域）と、核心地域の周辺部の緩衝帯としての役割を果たす緩衝地域（バッファゾーン：図1のB地域）に区分されるが、約4分の3を占める青森県側の世界遺産地域の核心地域へは、入山手続きを行った上で27の指定ルートと既存の歩道限定で入山可能となっている（青森県，2024）。しかし入山可能とはいえ、核心地域においては、次世代に貴重な自然環境を引き継ぐことを目的として、既存の歩道を含めたルートの整備が行われていない。



図1 白神山地における世界遺産地域（環境省，n.d.）

1 白神山地での調査にあたっては、白神山地ビジターセンター専門員の山本昌子さんに調査対象の現状に関する情報提供を受け、助言をいただきました。ここに感謝いたします。

本研究は JSPS 科研費 JP23H03645 の助成を受けたものである



図2 緩衝地域における暗門溪谷ルートとブナ林散策道（西目屋村，2024）

そのため一般観光客が、世界自然遺産・白神山地の自然環境を手軽に体感できる散策としては、緩衝地域に位置する図2の暗門溪谷ルートや隣接するブナ林散策道などでの行楽が推奨されている（白神山地ビジターセンター，n.d.）。

### 3. 観光地としての白神山地

本節では、白神山地におけるユニバーサルなアウトドア観光を検討するために、観光地としての白神山地の特徴について概観する。観光地としての白神山地を捉える場合、世界遺産地域の約4分の1を占める秋田県側にも白神山地世界遺産センター・藤里館が設置されているものの、秋田県側では核心地域への入山は基本的に禁止されており、それ以外の観光地も乏しいため、青森県側が中心となる。青森県側では、図1の通り、白山山地ビジターセンター（図3）、白神山地世界遺産センター（西目屋館）といった施設や十二湖といった観光地の多くが世界遺産地域外に存在するため（牧田，2002）、総称としての白神山地全体を対象として考えることが妥当といえる。

青森県観光国際戦略局観光企画課企画戦略グループ（2024）の青森県観光入込客統計データを基にして、白神山地と白神山地関連の入込客数の推移を図4にまとめた。なお白神山地入込客数は、暗門の滝遊歩道、ブナ林散策道、くろくまの滝、ミニ白神（現・白神の森遊山道）、十二湖公園という4地点における入込客数の合計である。

暗門の滝遊歩道とブナ林散策道は先述の通り世界遺産地域の緩衝地域に立地している。くろくま



図3 青森県の白神山地ビジターセンター

（注）筆者撮影

の滝とミニ白神（現・白神の森遊山道）は世界遺産地域外にあるが、ブナ林自然林が残されている場所にハイキングコースが設置された観光地である。最後の十二湖公園は、車で目的地までアクセスでき、駐車場から舗装された道を散策できる一般観光客向けの観光地であり（白神山地ビジターセンター，n.d.）、神秘的湖「青池」をシンボルレイクに沸壺の池、金山の池、落口の池など景観が美しい池が訪れる人々を魅了する人気の観光地である（青森県深浦町，2021）。白神山地関連入込客数は、白神山地入込客数に、白神山地ビジターセンター、ブナの里白神館、アクアグリーンビレッジ ANMON、白神観察館ハロー白神、森の物産館キョロロ、アオーネ白神十二湖、十二湖リフレッシュ村、十二湖ビジターセンター、十二湖エコ・ミュージアムセンター故郷館という9地点における入込客数を加算したものである。それらの施設は白神山地に立地する代表的なビジターセンター・博物館、および宿泊施設等から構成されて

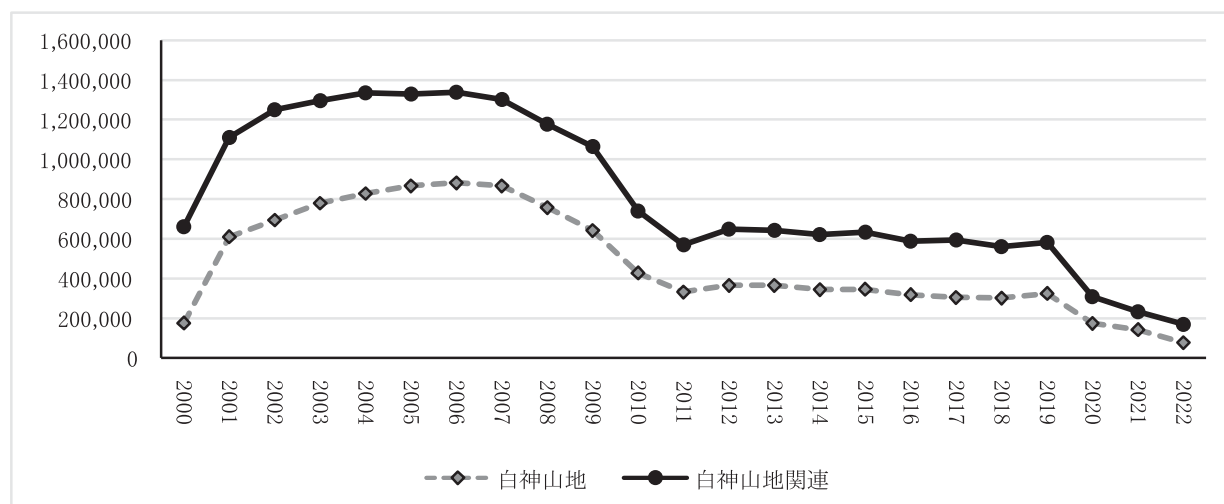


図4 白神山地と白神山地関連の入込客数の推移 (青森県観光国際戦略局観光企画課企画戦略グループ, 2024)

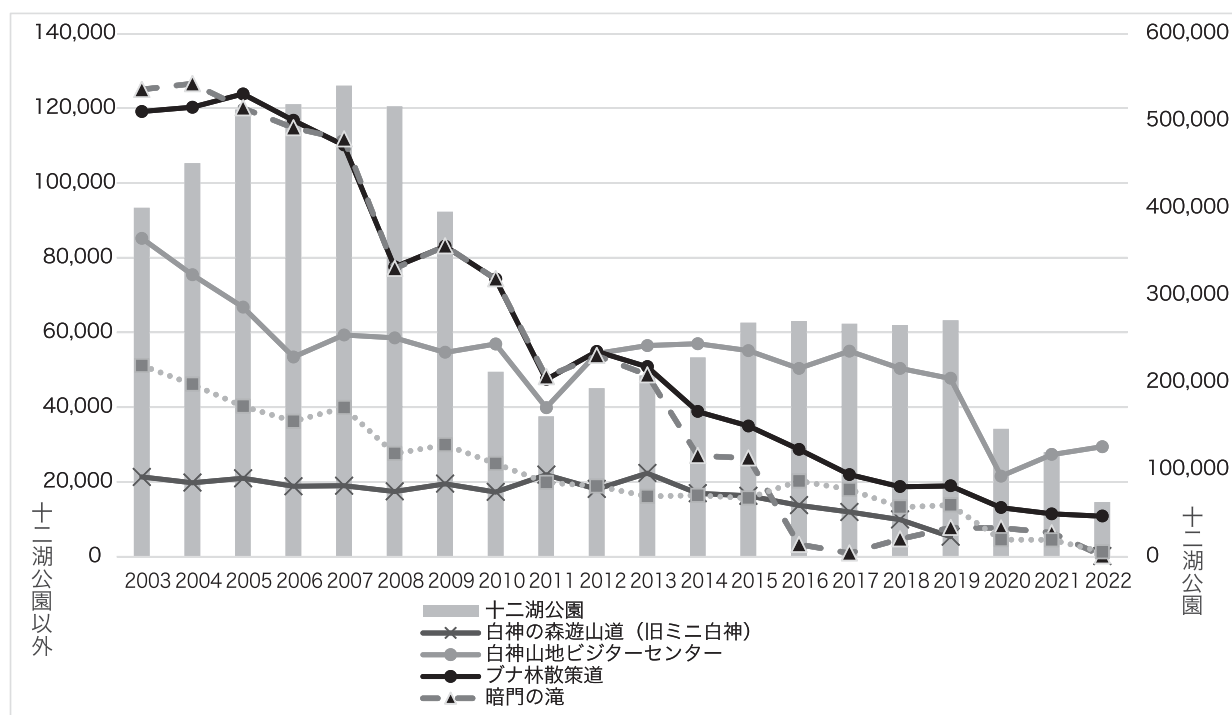


図5 白神山地の主要な観光地の入込客数の推移 (青森県観光国際戦略局観光企画課企画戦略グループ, 2024)

いる。白神山地と白神山地関連の入込客数ともに、近接する観光地の入込客数を合計した数値であるため、純粋な入込客数よりも過大な数値となっているが、全体的な傾向を把握するためには役立つであろう。

図5をみると、白神山地と白神山地関連の入込客数は、2001年から増加しているが、2006年にピークアウトし（白神山地約88万人、白神山地関連約133万人）、その後は2011年まで減少している。白神山地と白神山地関連の入込客数の減少

傾向はともに2011年に底を打ち、2012年には若干の回復を見せたもののピーク時と比較すると半減しており（白神山地約36万人、白神山地関連約65万人）、2019年までは何とか現状を維持しているという程度であった。2019年は訪日外国人観光客数が史上最高の3,188万人に達した年（国土交通省観光庁, 2024）であるが、白神山地と白神山地関連の観光地では、訪日外国人観光客増の影響は受けていないといえる。日本政府観光局（2024）の訪日外国人観光客の都道府県別延べ

宿泊者数の集計結果によると、青森県での宿泊者数は最も多かった2018年でも37,960人、2019年は27,930人にとどまっており（日本政府観光局、2024b）、白神山地の入込客数を押し上げるほどの数字ではなかった。そして2020年以降は、コロナ禍の影響を受け大幅に減少となっている。観光地の入込客の推移について、より詳細に検討するために、図5に世界遺産登録から10年経過した2003年以降の白神山地の主要な5つの観光地における入込客数の推移を示した（青森県観光国際戦略局観光企画課企画戦略グループ、2024）。

白神山地関連で最も集客している観光地は、深浦町の十二湖公園である。十二湖公園は、先述の通り、車でのアクセスがよく、観光スポットとして有名な青池（図6）まで、駐車場からブナ林自然林の中を舗装された散策路（図7）を歩いてアクセス可能となっている。青池～ブナ自然林～沸



図6 十二湖公園の景勝地の青池

注）筆者撮影



図7 十二湖公園のブナ林自然林内の散策路

注）筆者撮影

壺の池～十二湖庵の散策コースは起伏も少なく1時間弱で回ることが出来るため、一般客や旅行ツアーで訪問される方々の人気のコースとなっている（青森県深浦町、2021）。また公園内には、ビジターセンターや環境学習施設、土産物店、宿泊施設などが整備されている。そのように最も人気な観光地である十二湖公園ではあるが、入込客数は2007年の約54万人をピークに2011年には3分の1以下の約16万人まで減少し、その後、若干の回復傾向を見せたものの、コロナ禍前の2019年でも約27万人とピーク時の半減にとどまっている。

世界遺産地域の緩衝地域に位置する観光地のうち、暗門の滝については、2004年の約12万6千人が最大値であり、2015年には2割程度の2万6千人まで落ち込んでいる。2016年以降に1万人以下となっているのは、2015年の落石による事故による遊歩道閉鎖の影響であり、その後は、名称も遊歩道から「暗門溪谷ルート」と変更され、一般の観光客は、しっかりした装備を準備しガイドを頼まないとアクセスするのが困難な場所となっている。暗門の滝の2016年以降の低迷については、そのような特殊要因が影響しているといえるが、隣接地域でそのような影響のないブナ林散策道においても、2022年の約12万3千人のピークから減少傾向が続き、2019年の約1万9千人とピーク時の2割を割り込む状況となっている。コロナ禍の影響を大きく受けた2020年から2022年まではさらに落ち込んでいる。2023年の入込客数についてはまだ発表されていないが、ほぼ同等の東北地方環境事務所（2024）のデータでは、ブナ林散策道の2023年の入山者数は、コロナ禍の直前の2019年を上回る2万6千人と2016年の水準程度まで回復している。とはいえ、2009年の3割にも達していない数値である。そもそも世界遺産地域への玄関口となる、白神山地ビジターセンターにおいても2000年のピーク時の約8万5千人と比較して、2019年の入込客数は4万7千人程度と約6割にまで減少している。

鯉ヶ沢町の白神の森遊山道は、元々はミニ白神という名称で、世界遺産地域からは外れているも

の、樹齢 200 年を超えるブナも自生しており、白神山地核心部同様の森林景観を楽しむことのできる観光地として 2010 年まで約 2 万人の入込客数を継続して集め、一定の人気を得ていた。ただし、2014 年 4 月より「白神の森遊山道」と名称が変更され、現在では、図 8 のように事前予約が必要な有料ガイド同伴での入山のみを認める方式に変更されている。その変更に伴い大幅な入込客数の減少が生じているが、この変更自体は、持続可能な観光として評価できるものといえるであろう。

白神山地においては、自然保護運動の当初、ブナ原生林の自然的価値だけではなく、ブナ帯文化を育んできたブナ林という文化的価値が掲げられていたが、白神山地を林道建設から守り、森林生態系保護地域、自然環境保全地域、世界遺産として保護の網をかけていく過程で、ブナ原生林の価値のみが強調され、ブナ帯文化という文化的価値が忘れられる結果となった（吉田，2018）と指摘されている。外崎（2015）は、白神山地全体の 13 万 ha を自然と人間との共生を図りながら持続



図 8 白神の森遊山道（鯉ヶ沢町）でのガイド付きトレッキング

注）筆者撮影

的利用を行うトランジションエリアとして、ユネスコの生物圏保存地域にゾーニングすることで、ブナ原生林とブナ文化帯の価値を統合し、コミュニティが白神山地を自分たちの地域として、主体的に参画できるような地域とすることを目指すユネスコエコパーク構想を提案している。すなわち、バラバラに成立している保護地域、施設、エリアを空間的に大きなまとまりにゾーニングし直すことが、白神山地における文化的価値の再統合と持続可能な利活用の強化という問題解決につながるとの認識に基づいた構想である。白神の森遊山道は、そのような構想において、ブナ文化帯の価値を現地のフィールドで訪問客に伝え伝え、その活動にコミュニティが主体的に参画するという役割を十分に果たすことができるポテンシャルを有しているといえよう。

世界的には、例えば、韓国済州島にある世界遺産地域のコムンオルムでも、白神の森遊山道と同様に事前予約制による有料のガイド付きの見学のみを認め、生態系保全と観光の両立を実現している（図 9）。ただし、コムンオルムではインターネット予約システムが十分に整備され、訪問客の利便性が確保されているのに対し、白神の森遊山道では、電話のみでの対応で、また通常の予約は土日限定であるなど、さらなる需要の掘り起こしと予約の利便性を高める施策は必要であろう。

総じて、白神山地の観光地は、世界遺産登録後 10 年程度を経過した段階で急速に集客力を失い、



図 9 韓国済州島の世界遺産コムンオルムでのガイド付きトレッキング

注）筆者撮影

2011 年を底に減少傾向が止まった十二湖公園と白神山地ビジターセンターにおいても、2020 年のコロナ禍の影響から立ち直れていないという現状にあるといえよう。1996～1997 年と 2001～2002 年に、暗門の滝、白神岳、およびニッ森で来訪者を対象とする調査を行った大石（2005）は、遠隔地居住者の方が、地元居住者よりも来訪目的に世界遺産やブナ林をみることを多くあげたこと、森林訪問回数が少なく森林に不慣れな人は暗門の滝へ森林浴に、森林訪問回数が多く森林に慣れている人は白神岳へ登山に訪れるということとを明らかにした。暗門の滝、ブナ林散策道、あるいは白神の森遊山道といったブナ林での体験の価値は当時と変わっていないのであるから、適切に魅力を伝えて、集客へとつなげることが重要であろう。2024 年の訪日外国人観光客は、10 月までに 3,000 万人を 1964 年の統計開始以来最速で突破し（日本政府観光局, 2024a）、過去最高であった 2019 年を上回ることが予想されている。訪日外国人観光客の都道府県別延べ宿泊者数が現状では少ない青森県は今後の受け入れ拡大の大きな機会をもっているともいえるわけであり、外国語での広報や予約・宿泊対応を進めることで、そのチャンスをもにすることができる可能性がある。特に、欧米系ツーリストは、スポーツや自然に関わるアクティビティへの関心が高く、アクティビティを通じて、景観美や自然、あるいは精神的な体験を得ること重視しており（市川, 2019）、その層へのアプローチが有効であろう。

#### 4. ユニバーサルツーリズムの観点からの 現状評価と今後の課題

ユニバーサルなアウトドア観光を考える場合には、一般向けとされている暗門溪谷ルートや隣接するブナ林散策道（図 2）であっても、図 10 のように地形的にそれなりに急傾斜の階段等を含むアップダウンが多くあるため、それらを歩行が困難な高齢者や車いす使用者向けにアクセス可能状態に整備することは、世界遺産地域での自然保護の観点からして、事実上不可能といえる。



図 10 ブナ林散策道の入り口の階段

注) 筆者撮影

白神の森遊山道についても、エリア内全てにおいて、歩行が困難な高齢者や車椅子使用者向けにアクセス可能状態に整備することは困難である。しかし、富士見高原リゾート（富士見高原リゾート花の里, n.d.）で実施しているようにアウトドア用車椅子のヒッポを貸し出す体制の導入によって、安全を確保した限定したエリアでのガイド付きツアーを実現させることは可能であろう。国内宿泊旅行を対象としたユニバーサルツーリズムの潜在的市場規模は、今後 3 兆 136 億円に達すると推計されている（国土交通省観光庁観光産業課, 2023）。そのような大きなニーズに対応するためには、すでに起伏も少なく舗装された遊歩道が整備されている十二湖公園の活用が有望である。青森県深浦町（2021）も第一次十二湖振興戦略プラン（2021 年度～2026 年度）における課題として、散策者が迷うことなく安全に散策できるように遊歩道サイン（案内板）と散策マップの整備を挙げている。その際に、導入が望まれるのが、改造をしたり、特別なデザインとすることなく、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい製品や環境をデザインする、というユニバーサルデザインの考え方（Mace, 1985）の導入である。現状では、十二湖公園で最も有名な青池には車椅子使用者もアクセスできるが、図 11 のように青池の景観をより楽しむための展望デッキへは階段でしかアクセスできない状態となっている。もちろん、地形上の制約はあるが、再整備に際しては、階段部分を延長して勾配を緩やかにしたうえでスロー



図 11 青池の展望デッキへの階段  
注) 筆者撮影

プを設置する等の対応が可能かについて検討される必要がある。

また、散策者が迷うことなくという観点については、単に道を迷うことなくというだけでなく、自然公園等施設技術指針（環境省自然環境局自然環境整備担当参事官室，2014）で示されているように、訪問客が判断を迷うことのないように、多様な利用者の能力やニーズを考慮しつつ、何を、いつ、どこで、どのような媒体で伝えれば効果的であるかを考え、情報発信の場所や方法を選択するとともに、常に最新の情報に更新しておくことが望まれる。そして、地図には石盛（2024）が指摘しているように、どの区間が、車椅子使用者が利用可能な区間であるかを明記することが必要であろう。そうすれば、利用者が主体的に自分に適したプランを事前に立てることができ、また実際に現地を訪問し現状を確認してから、そのプランを調整することが可能となる。そして、兵庫県他（2022）のユニバーサルツーリズム推進に向けたニーズ調査において、障がい者の 43.6%、高齢者の 19.3% が望んでいた「旅行でどのようなことを楽しめるのかなど、具体的な情報を入手できる」というニーズを満たすことにつながるであろう。

#### 引用文献

- 青森県深浦町（2021）．第一次十二湖振興戦略プラン（2021年度～2026年度）．Retrieved November 25, 2024, from [https://www.town.fukaura.lg.jp/fixed\\_docs/202112600023/](https://www.town.fukaura.lg.jp/fixed_docs/202112600023/)
- 青森県観光国際戦略局観光企画課企画戦略グループ（2024）．青森県観光入込客統計 Retrieved November 25, 2024, from <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kanako/kanko/kankoutoukei.html>
- 青森県自然保護課（n.d.）．世界遺産白神山地 Retrieved November 25, 2024, <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/shirakami.html>
- 富士見高原リゾート花の里（n.d.）．みんなが楽しめる色彩のリゾート Retrieved November 25, 2024, from <https://hanano-sato.jp/guide/enjoy/everyone.html>
- 兵庫県・小泉二郎・加藤彩乃（2022）．令和4年度兵庫県ユニバーサルツーリズム推進に向けたニーズ調査 Retrieved September 25, 2024, from <https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr16/documents/ni-zutyousakekka.pdf>
- 市川康夫（2019）．中山道を歩くインバウンド・ツーリズム－欧米系ツーリストの来訪動機に着目して－地学雑誌，28，921-940. <https://doi.org/10.5026/jgeography.128.921>
- 石盛真徳（2024）．地域のトレイルをユニバーサルなアウトドア観光に活用するためには何が必要か－情報提供の観点からの検討－ 追手門学院大学経営論集，30（2）．
- 環境省（n.d.）．白神山地 Retrieved November 25, 2024, from <https://www.env.go.jp/nature/isan/worldheritage/shirakami/index.html>
- 環境省自然環境局自然環境整備担当参事官室（2014）．自然公園等施設技術指針 Retrieved November 25, 2024, from [https://www.env.go.jp/nature/park/tech\\_standards/attach/02-guide/full.pdf](https://www.env.go.jp/nature/park/tech_standards/attach/02-guide/full.pdf)
- 国土交通省観光庁（2024）．訪日外国人旅行者数・出国日本人数 Retrieved November 25, 2024, from [https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei\\_hakusyo/shutsunyukoku.shasu.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shutsunyukoku.shasu.html)
- 国土交通省観光庁観光産業課（2023）．ユニバーサルツーリズムに関する調査業務報告書 Retrieved November 25, 2024, from <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001754475.pdf>
- Mace, R.（1985）．Universal Design: Barrier free environments for everyone. *Designers West*, 33（1），pp.147-152.
- 牧田 肇（2002）．新興の観光対象「世界遺産・白神山地」とエコツーリズムの模索 地理科学，571，176-186. [https://doi.org/10.20630/chirikagaku.57.3\\_176](https://doi.org/10.20630/chirikagaku.57.3_176)

- 中静 徹 (2013). 白神山地 20 年の課題と展望 ワイルドライフ・フォーラム, 18 (1), 3-5. [https://doi.org/10.20798/wildlifeforum.18.1\\_3](https://doi.org/10.20798/wildlifeforum.18.1_3)
- 日本政府観光局 (2024a). 訪日外客数 (2024 年 10 月推計値) Retrieved November 25, 2024, from [https://www.jnto.go.jp/statistics/data/\\_files/20241120\\_1615-1.pdf](https://www.jnto.go.jp/statistics/data/_files/20241120_1615-1.pdf)
- 日本政府観光局 (2024b). 都道府県別外国人延べ宿泊者数 Retrieved November 25, 2024, from <https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--lodgers--by--prefecture>
- 西尾 建 (2025). アウトドア観光における共生モデルの研究 Retrieved March 20, 2025, from [https://researchmap.jp/nishiot/research\\_projects/41911903](https://researchmap.jp/nishiot/research_projects/41911903)
- 大石康彦 (2005). 白神山地地域における来訪者の特徴－暗門の滝, 白神岳, ニッ森における 1996～1997 年と 2001～2002 年の来訪者を対象に－ 東北森林科学会, 10, 8-16. [https://doi.org/10.18982/tjfs.10.1\\_8](https://doi.org/10.18982/tjfs.10.1_8)
- 白神山地ビジターセンター (n.d.). 十二湖散策コース Retrieved November 25, 2024, from [https://www.shirakami-visitor.jp/shirakami\\_routemap/jyuniko.html](https://www.shirakami-visitor.jp/shirakami_routemap/jyuniko.html)
- 東北地方環境事務所 (2024). 令和 5 年度白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表 Retrieved November 25, 2024, from <https://tohoku.env.go.jp/content/000194621.pdf>
- 外崎杏由子 (2015). 世界自然遺産としての価値とコミュニティにとっての価値の不一致－白神山地を事例に－ 平成 26 年度筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻修士論文 Retrieved November 25, 2024, from [https://www.heritage.tsukuba.ac.jp/wp-content/uploads/2018/10/Tosaki\\_2014.pdf](https://www.heritage.tsukuba.ac.jp/wp-content/uploads/2018/10/Tosaki_2014.pdf)
- 吉田正人 (2018). 世界遺産を問い直す 山と溪谷社.